

## 韓国の非正規労働者問題

朝日新聞編集委員 林美子氏

7月14日、『朝日新聞』の林美子氏から、 標題について最新の話をお聴いた。氏は今春、日本 ILO 協会の交流団で訪韓し、かたわら独自の取材も果たされた。

話の冒頭、軍政時代に人権抑圧を非難、劣悪労働条件に抗議して焼身自殺した全泰壺（チョン・テイル）氏の史実（1970年）に言及したとき、今日の非正規労働者のおかれた状況に連動するトーンが感じ取れた。



1990年代末、IMF 経済危機を機に労働市場の柔軟化が進むと非正規労働者が急増、苦境から自殺した労働者は一人ならず。非正規問題はたちまち社会的イシュー と化した。「高空籠城」と称するビル屋上占拠なども後を絶たない。

今日、雇用労働者数は1900万人。非正規労働者数は600万人とされるが、実際には890万人とする推計もある。しかも工場の構内下請け労働者ら「特殊雇用労働者」を含めれば、非正規労働者数は1000万人を上回るという。

2007年「非正規労働者保護関連法」は勤続2年後の無期雇用化などを規定、結果的に67%の直接雇用化、無期限雇用化をもたらした。政府は2年を4年に延長する考えだが、労働側は強く反対の構えだ。

人権派の市長を持つソウルでは労使民政委員会を立ち上げて、自治体初の「労働政策基本計画」を策定、市営地下鉄の清掃などの非正規職約7600人を直接雇用・無期転換して「公務職」とし、仕事に「誇り」を持てる処遇を実現するなど、非正規雇用対策の在り方に一石を投じている。

当日の参加者は26名、討論にも大いに熱が入った。（小島正剛）